



## 環境省「グリーンファイナンスモデル事例創出事業」における モデル事例選定について

商工中金は、サステナブルファイナンスなどの取組みを通じ、お客さまのサステナブル経営および持続可能な社会の実現に貢献していきます。

今回、商工中金における「ポジティブインパクトファイナンス（PIF）と紐付けし、インパクト預金とそれを原資とした PIF の枠組み（以下、本枠組み）」（※1）が、2022 年度環境省「グリーンファイナンスモデル事例創出事業（以下、同事業）」に係るモデル事例（※2）に選定されましたのでお知らせいたします。

同事業は、国内におけるグリーンファイナンスを更に普及させるため、特に環境面においてモデル性を有すると考えられる各種サステナブルファイナンスに関し、環境省が策定・公表した各種ガイドライン等に適合する事例を創出し、情報発信等を行う事業です。

商工中金は、本枠組みのもと「インパクト預金を原資に、ポジティブ・インパクト・ファイナンスを実行」する、「調達」と「融資」を一体としたフレームワーク（※3）を新たに制定します。この取組みは本邦初であり、以下の点でモデル性評価を得ております。

### <モデル性評価のポイント>

1. PIF とインパクト預金による資金の好循環の創出を企図したフレームワークを構築。預金者は預金を通じて中小企業の取組を支援するとともに、商工中金によるモニタリングを通じて取組が加速される点が特徴。
2. 中小企業が自身の取り組みの応援者＝預金者に対する意識を持つことで、中小企業と社会の結びつきを強くし、具体的な取組みを推進する効果等がある。
3. 商工中金が蓄積したノウハウを、各地域の地域金融機関との業務提携を通じて共有することや、地域金融機関が、商工中金が作成する PIF 評価を利用、協調支援することで他の金融機関への波及効果が期待される。
4. 2020 年から ESG 診断、幸せデザインサーベイなど中小企業のインパクトを測定・管理するツールを独自に開発しており、提供した企業は既に 1,000 社超に及ぶ。これらのツールの結果も最大限に活かしつつ、インパクトの測定・管理を行っている。

商工中金は、こうした取組みを通じ、中小企業の皆さまのサステナブルな経営の取組みを積極的にサポートし、気候変動をはじめとした様々な変化につよい社会の実現を目指してまいります。

（※1）ストラクチャリング・エージェントであるみずほ証券株式会社より支援を受けております。

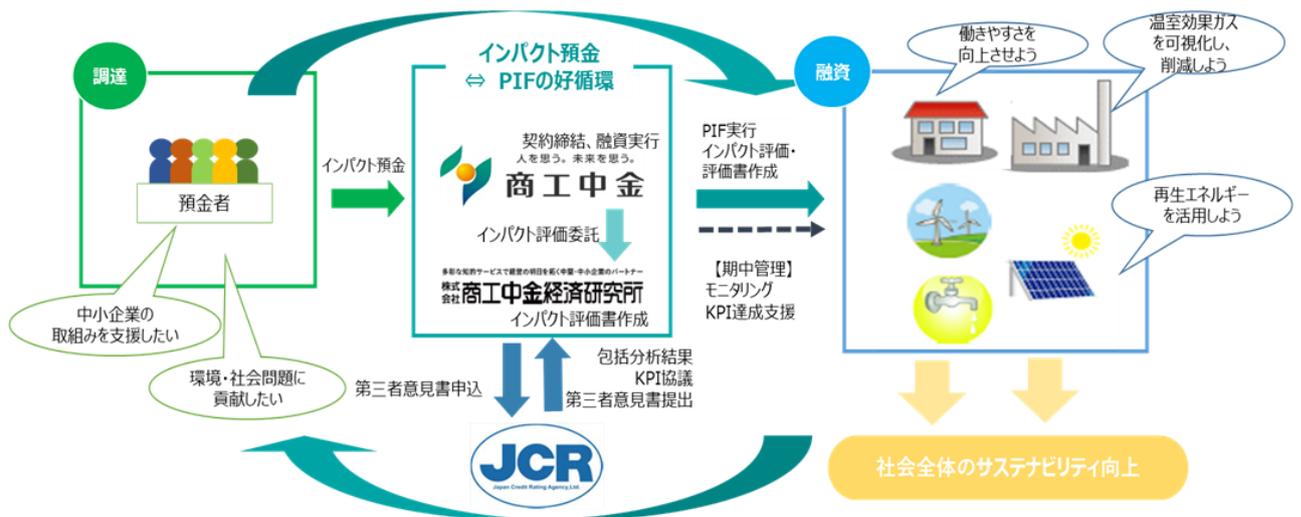
（※2）令和4年度グリーンファイナンスモデル事例創出事業 [https://www.env.go.jp/press/press\\_00401.html](https://www.env.go.jp/press/press_00401.html)

（※3）後日、本フレームワーク及びインパクト預金の概要について別途公表を予定しております。

【商工中金のバランスシートにおけるサステナブルファイナンスの考え方】

資産		負債・資本	
グリーン/ソーシャル/ サステナビリティローン	グリーンプロジェクトに対する 投融資	グリーンボンド	SDGs債による 市場調達
	ソーシャルプロジェクトに対する 投融資	サステナビリティボンド	
		ソーシャルボンド	
	<b>ポジティブインパクトファイナンス (PIF)</b>	<b>PIFの原資となる預金</b>	インパクト 預金
	上記以外の融資等	上記以外の 負債・預金・資本	

【本フレームワークのイメージ図】



【環境省】2022年度グリーンファイナンスモデル事例創出事業に係るモデル事例の選定及び、ガイドライン適合性確認結果について

(添付資料)

- ・ [案件概要](#)
- ・ [適合性確認報告書](#)